

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第1週)

(令和7年12月29日～令和8年1月4日)

令和8年1月9日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年			2026年		2025年合計	2024年合計
		50週	51週	52週	1週	合計		
定点報告	インフルエンザ	31.00	26.00	35.33	9.33	—	—	—
		93	78	106	28	28	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.00	1.33	3.67	2.67	—	—	—
		3	4	11	8	8	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	0.50	—	0.50	—	—	—	—
		1	0	1	0	0	156	309
	咽頭結膜熱	0.50	1.00	—	—	—	—	—
		1	2	0	0	0	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	3.00	1.50	0.50	—	—	—
		2	6	3	1	1	243	657
	感染性胃腸炎	1.00	—	—	0.50	—	—	—
		2	0	0	1	1	430	610
	水痘	0.5	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	0	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	0.50	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	1.00	0.50	—	—	—	—
		1	2	1	0	0	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	2.00	—	—	—	—	—
		0	2	0	0	0	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	—	—	—	—	—
		1	1	0	0	0	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	3.00	4.00	4.00	1.00	—	—	—
		3	4	4	1	1	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00	2.00	—	1.00	—	—	—
		1	2	0	1	1	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	89.67	90.00	86.67	45.33	—	—	—
		269	270	260	136	136	8849	—
全数報告	つつが虫病	0	0	1	0	0	3	1
	梅毒	0	1	0	0	0	3	6
	百日咳	1	1	6	0	0	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ は今後の動向に注意が必要です。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 本県における令和8年第1週の定点当たり報告数は9.71と、警報終息基準である10を下回ったため、警報は解除となります。減少が続いてますが、B型の比率が増加傾向にあり、再び感染拡大する可能性があるため、注意が必要です。インフルエンザウイルスに感染すると、38°C以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。ワクチン接種や基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス 感染症	相双地域は前週と比較して減少ましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 全国と比べると報告数が多い状況にあります。年始にかけて増加する傾向があるため注意が必要です。インフルエンザと同様、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
腸管出血性大腸菌 感染症	本県で2名の報告がありました。 昨年末より報告が続いている。腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素を産生する大腸菌に感染することで起こり、2～9日ほどの潜伏期間の後、激しい腹痛を伴う下痢や血便等の症状が生じます。主に、菌に汚染された食品等を摂取する経口感染により感染し、人から人への感染は、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分にしなかった場合に起こります。今後新年会シーズンを迎えるため、十分な加熱等、食品を適切に取り扱い、食事前やトイレ使用後の石けんと流水による手洗いを徹底しましょう。

引き続き感染拡大を防ぐため、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の継続をお願いします。

福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。

「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急電話相談 にご相談ください。